

1. 研究主題

登下校の交通安全と通学方法の選択

2. 主題設定の理由

本校は、学区内に新興住宅地が増えてきており、学級・生徒数が増加していくことが予想されている。学区内には、ガードレールや街灯のない道路や狭い道など危険な場所が多く、大型商業施設に近いため交通量が多い道路を横断する必要がある。昨年度までは自転車通学を許可する明確な基準がないため、自転車通学者の数が増加していくことが予想された。今年度より、2年間で段階的に自転車通学の許可をする範囲を設定することで、自転車通学者の数を限定し登下校の安全を確保できるのではないかと考え、本主題を設定した。

3. 研究仮説

- めあてを明確にした安全指導の実施と振り返りの活用をすることによって、子どもの安全への意識が高まるだろう。
- 自転車通学者の数を限定することで、徒歩・自転車共に安全に登下校をすることができるだろう。

4. 研究内容

【交通安全に関わる取組】

① 交通安全教室

4月に、交通安全指導員を講師として、1学年を対象に交通安全教室を実施した。グラウンドでは、模擬の交差点を作成し有志の自転車を借りて実際に二段階右折の方法を体験した。また、体育館では、動画での学習や自転車の点検の方法を確認した。

② スケアードストレイト

スタントで実際の事故に近い様子を見ることで事故の危険さを体験することができた。また、実際に生徒が行ってしまいそうな危険な場面についても再現してもらい、日常にある危険を感じる事ができた。

【自転車通学許可範囲に関わる取組】

- ① 全職員で学区内を巡回し危険箇所等の確認を行った。(R4年度)
- ② 段階的に行うために、1km、2kmの境界線の作成を行った。(R4年度)
- ③ 安全担当による巡回を行い、危険箇所の確認・境界線の再検討を行った。
(R5年度)

5. 成果と課題

【成果】

交通安全教室・スケアードストレイト後に振り返りを行った結果、「左右だけでなく後ろも見るのが大切だと知った。」「ヘルメットの重要性を知ることができた。」「右側は危険だと知ることができた。これからは左側を走りたい。」と回答している。徒歩通学者からも「ヘルメットを買って被ろうと思う。」という回答もあった。

自転車通学の許可範囲については、1kmの境界線を引いて許可をする基準をつくることができた。巡回を再度行うことで、危険箇所の確認と境界線の見直しをすることができた。

【課題】

交通安全教室では、グラウンドでの実技を全員が行うことができなかったため、次年度以降は2グループに分けて動画や自転車の点検方法について学習することに絞った方が良かったと感じた。

スケアードストレイトでは、立って見ても良いと指示があったが、後ろの方の生徒が見ることができないことが多くなってしまった。機会があった場合は見学する隊形を考える必要がある。

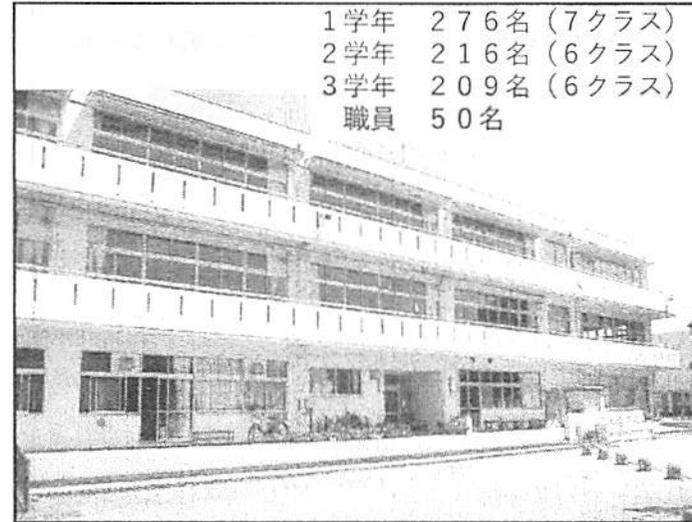
自転車通学許可範囲については、1kmの境界線は住宅地の中で区切られているため、許可する基準が曖昧になってしまった。見直しの結果許可の範囲内でも徒歩で問題ない範囲が確認された。2kmの境界線が未完成であった。

登下校の交通安全と 通学方法の選択



印西市マスコット
キャラクター
りんごちゃん

印西市立西の原中学校
教諭 形野 拓也



1学年	276名	(7クラス)
2学年	216名	(6クラス)
3学年	209名	(6クラス)
職員	50名	

○テーマ設定の理由

学校生活における安全教育で身に付けた知識・技能を家庭や地域社会における活動に生かし、安全のための適切な行動や実践の方法について考え、主体的な行動が実践できる資質・能力を培う。

(「学校安全の手引き」より引用)

○テーマ設定の理由

- ・生徒数がこれからも増加していく予定。
- ・今年度より、徒歩通学の範囲を決め、自転車通学者の限定をしていきたい。
- ・安全に生活できる意識を身に付けてほしい。

自転車点検表

自転車点検 検査項目一覧

1	タイヤの空気圧	
2	ブレーキの効き	
3	ヘッドライトの点灯	
4	ベルの音	
5	反射器の有無	
6	ヘルメットの着用状況	
7	安全帯の有無	
8	その他	

点検日 月 日

通学用鑑札シール



鑑札シールは最長で入学後から卒業まで使用

自転車点検は、保護者と各学期始めに行う。

交通安全教室（1年生）

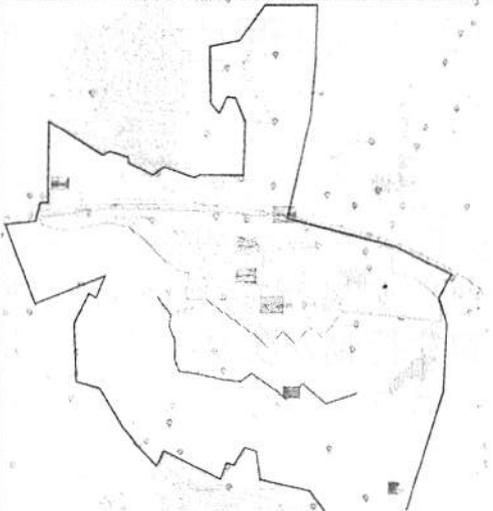
体育館



グラウンド



スケアードストレイト

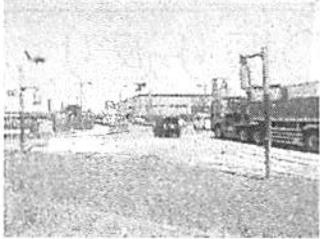



西の原中学区

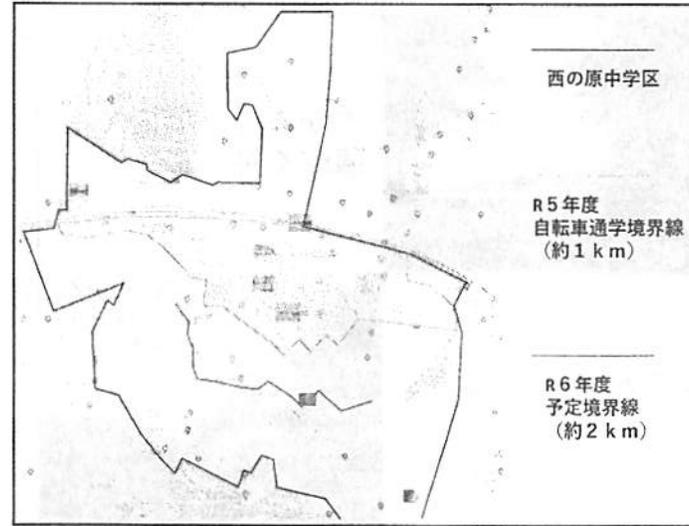
R5年度
自転車通学境界線
(約1 km)

R6年度
予定境界線
(約2 km)

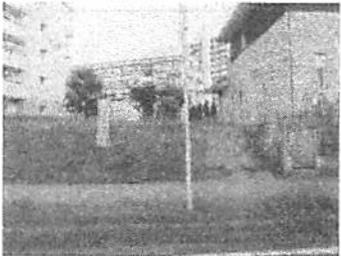
大型商業施設が多く
交通量の多い道路



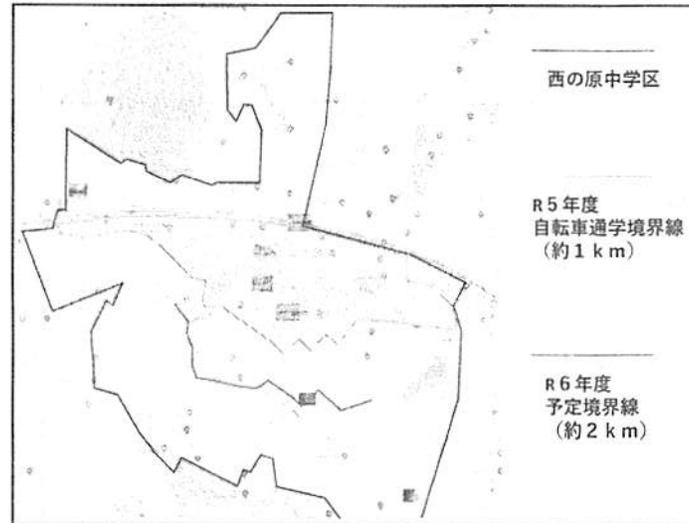
片側 2 車線の大きな
道路を横断する

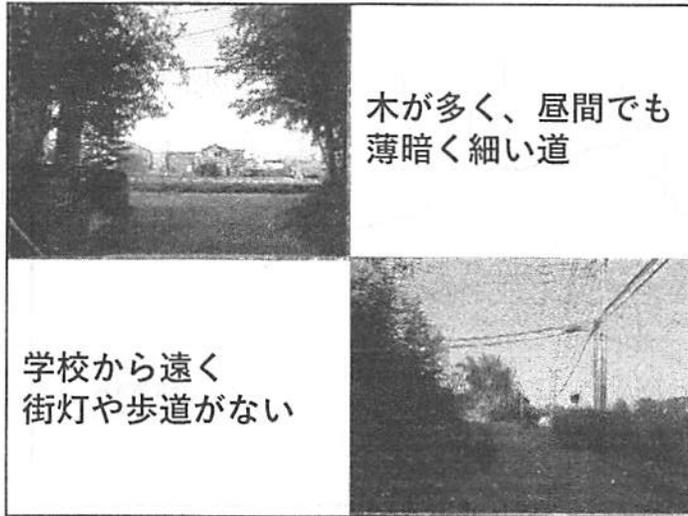


学校に近い空き地
自転車に乗ったまま
下ることがある



歩道がなく
徒歩での通学が危険





○振り返り

- ・今年度の境界線では住宅地の中で区切られているため、自転車を許可する基準が曖昧になってしまった。
- ・来年度、実施予定の境界線も見直した結果徒歩通学でも問題ない区域があった。
- ・牧の台（地図上方）についてや2 kmの境界線が未完成だった。

○令和6年度について

- ・学区の調査の結果、2 kmの境界線の見直しをする必要がある。
- ・GoogleMapのルート検索を使用した通学距離の確認方法を一本化する。
- ・引き続き、1年生の交通安全教室の実施
- ・自転車通学者への学期に1回の交通ルール・マナーの指導
- ・危険な場所や地域からの情報を元にした全校生徒との情報の共有

